

## レケンビの治療を考えている患者様とそのご家族様へ

### ① はじめに

レケンビは、「アルツハイマー病による軽度認知障害」と「アルツハイマー病による軽度認知症」に対する新しい薬です。レケンビはアルツハイマー病の原因と考えられているアミロイドβという物質を減らすことができ、その結果アルツハイマー病の進行の抑制が期待できます。ただし、アルツハイマー病の進行を完全に停止したり、治癒させる薬ではないことをご理解ください。

レケンビを投与する前には、多くの検査を受ける必要があります、検査結果によっては投与を受けられない場合があります。また、レケンビは2週間に1回の点滴投与(1回あたり1時間程度)が必要で、原則18か月間の投与となります。レケンビの有効性や副作用の有無を判断するために、投与中は定期的に認知機能検査と頭部MRI検査を受ける必要があります。その内容について、以下に説明します。

### ② レケンビの治療を受けられる要件

アルツハイマー病による軽度認知障害もしくは軽度認知症であることを検査して調べる必要があります。アルツハイマー病以外の認知症や中等度以上の認知症の患者様はレケ

ンビの治療を受けることができません。

したがって、レケンビを投与する前に以下の検査を受けていただく必要があります。

- 1) 認知機能検査：認知機能障害があつて、かつ、それが軽度であることを確認。
- 2) MRI 検査：脳のむくみ(浮腫)や脳出血等がないことを確認。
- 3) 脳脊髄液検査またはアミロイド PET 検査：アミロイド $\beta$ の病理を示唆する所見があることを確認。

はじめに、外来で 1)の検査を行い、確認された方については、1 週間程度の入院をしていただき、2)と 3)の検査を実施します。

もし、レケンビの治療が受けられなくても、患者様のご希望があれば、認知症の精査目的の入院検査等を実施させていただきます。

### ③ レケンビの副作用

レケンビの重大な副作用は、

- 1) 頭痛、悪寒、発熱、吐き気・嘔吐
- 2) アミロイド関連画像異常(ARIA)

の 2 つがあります。

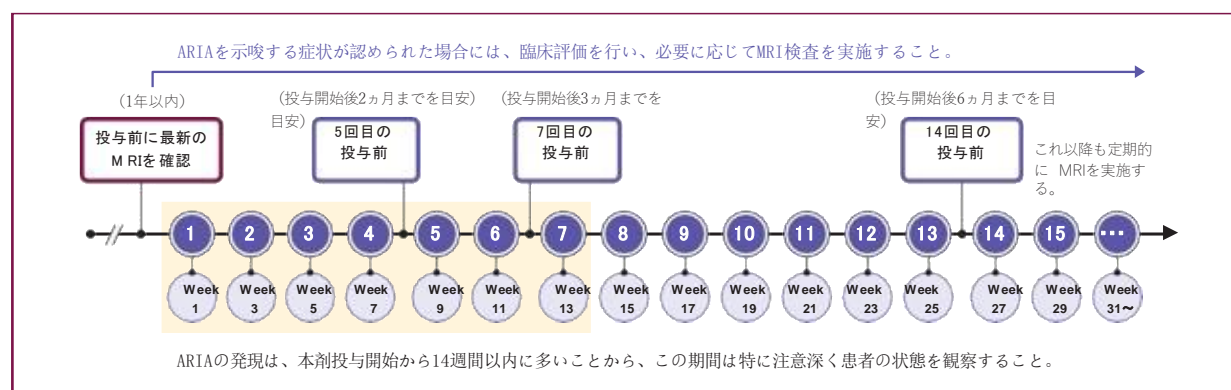
アミロイド関連画像異常(ARIA)とは、MRI などの画像検査をしたときに、脳のむくみ(浮

腫)や脳の微小出血などとして認められる画像所見です。ARIA が起こってもほとんどの場合症状はありませんが、まれに頭痛、錯乱、歩行障害、視覚障害、めまい、吐き気などがあらわれます。従って、レケンビ投与中は、ARIA の早期発見、経過観察のため MRI 検査を定期的に受ける必要があります。結果によっては、レケンビ投与の中断もしくは中止となることがあります。

#### ④ レケンビ投与の流れ

初回の投与は、原則入院での点滴投与を予定しています(日帰り入院～1泊2日)。副作用がないことを確認し、2回目以降は外来での投与となります。原則は2週間に1回で18か月間継続投与となります。

ARIA の確認のため、レケンビの5回目の投与前(投与開始後2か月)、7回目の投与前(投与開始後3か月)、14回目の投与前(投与開始後6か月)、以降は6か月に一回、MRI 検査を実施する必要があります。



加えて、レケンビの有効性を確認するため、レケンビ投与開始後、6 か月に 1 回、認知機能検査を実施いたします。認知機能検査は、患者様だけでなく、ご家族様または介護者様からの聴取が必要となりますので、その際は同伴をお願いいたします。

MRI 検査や認知機能検査の結果によっては、レケンビの投与の中断もしくは中止の可能性があります。

## ⑤ 全体のスケジュール

- 1) 外来：主治医より資料を用いてレケンビの説明をいたします。その後、主治医による問診と心理士による認知機能検査を実施します。初診の時には、ご家族様もしくは介護者様の同伴が必要です。
- 2) 入院(1 回目)：1 週間程度の入院をしていただき、認知症の精査、頭部 MRI 検査、脳脊髄液検査（またはアミロイド PET 検査）等を実施いたします。退院日に患者様とご家族様に検査結果を説明し、レケンビを投与できるかをお伝えします。ご家族様の都合が合わない場合、検査結果が間に合わない場合は、別日に外来でご説明いたします。
- 3) 入院(2 回目)：1)と 2)でレケンビの投与要件を満たした場合は、1 回目のレケンビの投与を開始します。1 回目の投与だけは安全性の観点から原則入院（日帰り入院～1

泊 2 日程度の入院)で行います。

- 4) 外来：レケンビの 2 回目以降の投与は 2 週間に 1 回の間隔で点滴注射を行います(原則 18 か月間)。適宜、MRI 検査と心理検査を実施します。

## ⑥ 費用について

レケンビのひと月あたりの薬代は約 30 万円です。通院治療にかかる診療費や検査費などは概算で 3 万円ほどになり、合計すると月 33 万円ほどかかる計算です。ただし、体重により薬代は変わり、患者様によっては検査の内容や回数も変わりますので、この金額は大まかな概算であることにご注意ください。この数値をもとにすると、毎月支払う医療費は、3 割負担の方で約 10 万円、2 割負担の方で約 7 万円、1 割負担の方で約 3 万 5 千円になります。

ただし、高額医療費制度などの医療費助成制度を利用すると、年齢や所得により自己負担額を抑えることができます。レケンビのように毎月高額な医療費がかかる治療に対しては、多数回該当という仕組みもあり、4 か月目からは自己負担額がさらに引き下げられます。他にもご負担をさらに軽くする仕組みもありますので、市町村や健康保険組合の窓口にお問い合わせください。また、当科外来に高額療養費制度についてのパンフレットを置いておきますので、参考にしてください。

【連絡先】 本治療をご希望される方や質問がある場合には下記まで連絡してください。

住所：札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

電話：011-611-3004

病院：札幌医科大学附属病院 神経精神科

第 1 版：2024 年 2 月 5 日